

1年生

# 月間報告

2016年3月

生徒氏名: A

責任者: 

### 【責任者とは】

授業では複数の講師がローテーションしながら1人の生徒を指導しますが、月間報告は1人の講師が長期的に担当し、生徒の成長を見守っています。また、この報告書は講師全体で共有され、授業に還元しています。

## ①今月の最重要課題とその対策

一文短く、「つなぎ言葉+誰がどうした」を徹底する・・・メモにつなぎ言葉を書き出しておく

## ②その他課題と今月の対策(「今月の対策」は具体的な内容が必要な場合のみ記入します)

現状の課題	今月の対策
(作文)簡単な表現ばかり使わずに適切な表現を考える	「言った」を使わない
(作文)同じ表現を繰り返さずに他の言葉に言い換える	「つまりどういことか」を考える

## ③先月の教材ごとの取り組み数とその状況

教材名	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目	7回目	8回目	9回目	状況
コボちゃん	1	1	1	1						よく考えながら取り組んでいる
	<b>【取り組み数について】</b> 上記の数字が「1」となっていれば、それは『コボちゃん』1本を書き上げたことを意味します。1・2年生は60分授業なので、その時間で毎回1本書き上げられるのが平均的なペースです。通い始めのころは時間がかかっても、数をこなしていくうちに徐々にペースアップしていきます。									

## ④責任者コメント欄

最初の教材として4コマ漫画の『コボちゃん』に取り組んでいます。作文を始める前に口頭で内容確認を行い、オチの理解が不十分な場合にはやり取りを通して再考を促したり、ぴったりの言葉を出せるように導いたりします。まだ始めたばかりですが、A君は最初から最後まで自分の言葉で説明することができ、内容に関する講師からの問いかけにもきちんと答えられていました。作文そのものも、確認時に考えたことをよく活かして、大きな情報の抜けなく書き上げられていました。

今後の最も重要な課題としては、「つなぎ言葉を用いて一文を短くする」ことが挙げられます。まだつなぎ言葉に慣れておらず、特に「～ので、・・・」というように理由と結果を一文にまとめてしまっていることが多いです。このような場合に「だから」「なぜなら」「実は」を用いて分けることで、因果関係を正確に掴むことに結びつきます。またこれらの理由のつなぎ言葉を使う習慣ができることで、「なぜそうなっているのか」を考えるきっかけになるので、ごく自然に話の重要な部分に注目できるようになっていきます。

また、この教室では「セリフ+言った」の形で「言う」を使用することを禁止しています。例えば、漫画の中に「おじいちゃんはおぼちゃんに『やめなさい』と言った」というセリフがあれば、それは「おじいちゃんはおぼちゃんにやめるように注意した」というように、その場面を想起しやすい、より適切な表現に置き換えられるからです。絵の内容をもとにして「つまりどういことなのか」を捉える訓練をしていきます。

気を付けるべきことはありますが、今は作文に慣れ親しむことが何よりも大事です。楽しみながら、できることを一つずつ増やしていったらと思います。

## ⑤保護者記入欄(要望、疑問などありましたら、どのような内容でも構いませんのでお書きください)

### ■低学年のうちから作文をする意味

作文を書く上での原稿用紙の使い方や表記の仕方といったことをしっかりと身につけるのはもちろん、教室で設けているルールによって自分で考えることを習慣化し、書くことへの抵抗をなくします。

入学したばかりの1年生であっても進め方は同様で、じっくりと取り組んでもらう中で「考える力」を育てていきます。

確認印